

=====

**ヤコブ 1:12** 試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。

試練に耐える人は幸いです。この幸いという単語は直訳すると「なんと幸せ」という意味です。そのとおりではありませんか。試練に耐えられたら幸いではありませんか。欲望がむらむらと湧きあがってきても、しっかりとイエスにつかまって「主よ、あなたを愛しています。あなたに罪を犯したくありません。どうか助けてください」と神に助けを求めることができたなら、どうでしょう。そのようにして誘惑が去っていったなら、どう感じるでしょう。幸いだ、なんと幸せなことだ、と思うのではないでしょうか。

では、イエスにしっかりつかまれなかったときはどうでしょう。誘惑に吞まれてしまったように感じる時、何が起こったのでしょうか。本当につかまれなかったのでしょうか。それとも、つかまろうとしなかったのでしょうか。

**1コリント 10:13** あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。

自分自身に問いかけてみましょう。私は神を愛しているだろうか。愛している。神は私が罪を犯すことを望まれるだろうか。望まれない。この誘惑より神は強いお方だろうか。もちろん強い。私が願ひさえすれば、この誘惑を拒めるよう神は助けてくださるだろうか。必ず助けてくださる。

**ローマ 10:13** 「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。

「試練に耐える人はなんと幸せでしょう。」けれども、逆も真なりです。「試練に耐えない人はなんと悲しいことでしょう。」

考えてみてください。罪を犯してうれしいですか。そんなことはありません。自分の意志で主から手を離し、肉の欲望にしがみついて、幸せでしょうか。もちろん、幸せではありません。敗北感を感じ、みじめだとか恥ずかしいとか思うでしょう。なぜでしょうか。

それは、私たちがクリスチャンだからです。キリストに信仰を置いたとき、私たちは神の御霊によって生まれ変わりました。罪を犯すと、私たちの内に住まれる神の聖霊を悲しませることになるのです。

**エペソ 4:30** 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。

もし、内なる御霊が悲しんでおられるのを感じない、罪の意識を感じないというなら、もしかすると生まれ変わっていないのかもしれない。まだ救われていないのかもしれない。

**1ヨハネ 3:9** だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。

神の子である私たちは、罪を犯して幸せではられません。罪の意識を感じ、悲しみます。それこそ、神の御霊が私たちのうちにおられる証拠です。また、確かに神の子として生まれた証拠です。

**ヤコブ 1:12** 試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。

ヤコブは、耐え抜けば報われると言います。誘惑を退けることでイエスへの愛を示しつつけるなら、いのちの冠を報いとして受けます。

このような誘惑はどこから来るのでしょうか。まず、神から来るものではありません。

**ヤコブ 1:13** だれでも誘惑に会ったとき、神によって誘惑された、と言ってはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。

ヤコブ 1:14 人はそれぞれ**自分の欲**に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。

ヤコブ 1:15 欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると**死**を生みます。

誘惑を受けること自体が罪ではありません。誰もが誘惑を受けます。イエスでさえ、悪魔の誘惑を受けられました。ですから、誘惑の中に罪はありません。誘惑に負けることが罪なのです。ここで気づくべきことは、罪を犯すから罪人になったのではなく、罪人だから罪を犯すという事実です。ヤコブはここで非常に明確に語ります。私たちの欲望が誘惑され、罪を生むのです。そして、罪を犯しつづけると、最終的には死をもたらします。

罪の結末を理解するには、死を別離と考えましょう。

肉体の死———霊とたましいを体から別離させます。

**伝道者の書 12:7** ちりはもとあった地に帰り、霊はこれを下さった神に帰る。

霊の死———罪は神との別離をもたらします。

**イザヤ 59:2** あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。

永遠の死———罪の中で失われたままでいると、神のあわれみから永遠に別離することになります。

神を知らない人について、また主イエス・キリストの福音を聞き入れない人について、パウロはこう言いました。

**2テサロニケ 1:9** そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。

とても重大なことです。考えてみてください。日本では、クリスチャンは人口の1%以下です。この個所に照らしてみると、どういうことでしょうか。そんなふうに考えたりしませんか。

**ローマ 6:23** 罪から来る報酬は死です。しかし、**神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのち**です。

creatures.

**ヤコブ 1:16** 愛する兄弟たち。だまされないようにしなさい。

**ヤコブ 1:17** すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。

**ヤコブ 1:18** 父はみこころのままに、**真理のことば**をもって私たちをお生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。

神は真理のみことばによって私たちをお生みになりました。パウロはこうも言います。

**エペソ 1:13** この方においてあなたがたもまた、**真理のことば**、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。

私たちは神のものです。神に属し、自分のいのちに聖霊という神の証印を押されています。神が与えてくださった聖霊は、私たちが神のものであることを示す証印です。

**ヤコブ 1:19** 愛する兄弟たち。あなたがたはそのことを知っているのです。しかし、だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。

**ヤコブ 1:20** 人の怒りは、神の義を実現するものではありません。

If we did... then most likely we would be a lot slower to wrath!

これを実行するのは難しいです。

私たちがしゃべる二倍聞くようにと、神は耳をふたつと口をひとつ与えてくださった、と言った人がいます。本当にそうすれば、怒るのにもっとおそくなることができるでしょう。

**箴言 10:19** ことば数が多いところには、そむきの罪がつきもの。自分のくちびるを制する者は思慮がある。

私の友達はいエスを愛するととても良い人です。けれども、怒りっぽい性格で、それが彼の悩みです。

彼が子どものころ、後で後悔するようなことを言わないように、上唇を噛んで我慢するよう学校の先生に言われたそうです。彼は今でもそうします。何かに腹を立てていて、言うのを我慢していたらすぐにわかります。上唇を噛んでいるからです。怒りをなかなか隠せないようですが、それでもこうやって対処している彼を尊敬しています。私自身、そんなふうにしていればよかったと思う部分です。

語るに遅くなることで、忍耐を得、そこから知恵が生まれます。

**ヤコブ 1:21** ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。

今の時代は、生まれ変わりや死後の世界の幸せな暮らしなど、良い人には何らかの救いがあると多くの人が信じたいようです。また、すべての道は神に通ず、といった考え方で、唯一の道などないと思いたいようです。

先ほどの個所で、神は私たちが真理のことばによってお生みになったとありました。

ここでは、**心に植えつけられたみことば**を受け入れなければならないとあります。そのみことばが私たちのたましいを救えるからです。

他に道はありません。

イエスはおっしゃいました。

**ヨハネ 14:6** イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

世間では、これは偏狭な考えだと思われがちです。私たちもその考えに賛同することを求められます。しかし、本当にそうでしょうか。

イエスはこうもおっしゃいました。

**マタイ 7:13** 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。

**マタイ 7:14** いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。

道を広げようとする人の試みには気をつけましょう。神のみことばが私たちの心に植え付けられると、新しいいのち、新しい人生をもたらします。

**ヤコブ 1:22** また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってはいけません。

**ヤコブ 1:23** みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。

**ヤコブ 1:24** 自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようなようであったかを忘れてしまいます。

神のみことばは、私たちの目の前に置かれた鏡のようです。私たちの本当の姿を見せてくれます。本当はすべきでないとわかっていることをしている自分の行いを見ます。残念ながら、そこを一步離れると、神のみことばに照らした自分の姿をすぐに忘れてしまうことが多いのです。神のみことばという鏡は嘘をつきません。

残念なことに、クリスチャンは偽善者だと多くのノンクリスチャンは思っています。それも当然です。

なぜなら、聖書を信じると言う多くの「自称」クリスチャンが、聖書の教えと矛盾した生き方を自ら選んでいるからです。

神のみことばを聞くだけでなく実行する人になる必要があります。世間の人、遠くからでも偽善はすぐに見破ります。うまくつくろっていると思っているのは自分だけです。だからこそ、私たちがどのように見えているのか、キリストにあって自分は何者なのかを忘れず覚えていなければならないのです。

**ヤコブ 1:25** ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。

みことばを実行する人になりましょう。自分を欺いて、ただ聞くだけではいけません。

イエスは言われました。

**ヨハネ 13:17** あなたがたがこれらのことを知っているのなら、**それを行う**ときに、あなたがたは祝福されるのです。

ヤコブ 1:26 自分は宗教に熱心であると思っても、自分の舌にくつわをかけず、自分の心を欺いているなら、そのような人の宗教はむなししいものです。

ダビデ王はこう言いました。

**詩篇 34:13** あなたの舌に悪口を言わせず、くちびるに欺きを語らせるな。

唇を噛みましよう。舌を噛みましよう。どうにかして、これを実行ましよう。

自分の舌にくつわをかけず、自分の心を欺いているなら、そのような人の宗教はむなししいものです。

**ヤコブ 1:27** 父なる神の御前できよく汚れのない宗教は、孤児や、やもめたちが困っているときに世話をし、この世から自分をきよく守ることです。

孤児ややもめとは、古代社会においてもっとも弱い立場の人々でした。

きよく汚れのない宗教が、困っている人にあわれみを施して助けることなら、汚れた宗教とは、他の人にあわれみをかけないことであり、自分本位で貪欲なことです。

自分本位や貪欲はもちろん、この世の考え方であり、神の考え方ではありません。ヤコブは、この世に汚されないようにと言います。それは、こういった利己的な考えに汚されないということです。

パウロもこう言いました。

**ローマ 12:2** この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

**ヤコブ 2:1** 私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません。

**ヤコブ 2:2** あなたがたの会堂に、金の指輪をはめ、りっぱな服装をした人が入って来、またみすぼらしい服装をした貧しい人も入って来たとして。

**ヤコブ 2:3** あなたがたが、りっぱな服装をした人に目を留めて、「あなたは、こちらの良い席におすわりなさい」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこで立っていなさい。でなければ、私の足もとにすわりなさい」と言うとしたら、

**ヤコブ 2:4** あなたがたは、自分たちの間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく者になったのではありませんか。

えこひいき・・・ヤコブはこれについて言いたいことがたくさんあるようです。それは、神のみこころやご性質に反するものだからです。

**使徒の働き 10:34** そこでペテロは、口を開いてこう言った。「これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、

**ローマ 2:11** 神にはえこひいきなどはないからです。

**1テモテ 5:21** 私は、神とキリスト・イエスと選ばれた御使いたちとの前で、あなたにおごそかに命じます。これらのことを偏見なしに守り、何事もかたよらないで行いなさい。

神にえこひいきがないなら、私たちにもあってよいでしょうか。

たまにこういうことがあります。新しく教会に来た人やしばらくぶりに来た人に、私が近づいて話しかけると、はげた頭やひげ面を見て変な人だと思うのか、すげなく扱われます。相手がそういう様子の方は、私はすぐに「よい一日を」と言って、会話を終えるようにします。その後、その人が誰かと話していて、私が通りかかった時に、ジョセフ「牧師」として紹介されると、その人の態度が一変します。急ににこにこして、「ああ、牧師先生。今日はとてもよかったです。ありがとうございます」などと言うのです。

**1サムエル 16:7b** 「。。。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、【主】は心を見る。」

神が外見にとらわれていないなら、私たちは外見にとらわれていてよいでしょうか。

**ヤコブ 2:5** よく聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者と、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされたではありませんか。

パウロはこう言いました。

**1コリント 1:27** しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。

**1コリント 1:28** また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。

**1コリント 1:29** これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。

**ヤコブ 2:6** それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑したのです。あなたがたをしいたげるのは富んだ人たちではありませんか。また、あなたがたを裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか。

**ヤコブ 2:7** あなたがたがその名で呼ばれている尊い御名をけがすのも彼らではありませんか。

**ヤコブ 2:8** もし、ほんとうにあなたがたが、聖書に従って、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という最高の律法を守るなら、あなたがたの行いはりっぱです。

**ヤコブ 2:9** しかし、もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違反者として責められます。

ここでヤコブはえこひいきの問題をこうまとめます。

「えこひいきするなら、罪を犯している。」単純明快です。

**ヤコブ 2:10** 律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、その人はすべてを犯した者となったのです。

**ヤコブ 2:11** なぜなら、「姦淫してはならない」と言われた方は、「殺してはならない」とも言われたからです。そこで、姦淫しなくても人殺しをすれば、あなたは律法の違反者となったのです。

**ヤコブ 2:12** 自由の律法によってさばかれる者らしく語り、またそのように行いなさい。

**ヤコブ 2:13** あわれみを示したことの無い者に対するさばきは、あわれみのないさばきです。あわれみは、さばきに向かって勝ち誇るのです。

私には今まで、誰かを助けようと手を差し伸べて、逆に傷つけられた経験が何度もあります。もちろん、私の判断ミスがあったのでしょし、これからも同じようなミスをするでしょう。けれども、もしミスを犯すなら、裁きの側に立った間違いではなく、恵みあわれみの側に立った間違いであってほしいと願います。

なぜなら、イエスがこう言っておられるからです。

**マタイ 7:2** あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。

つまり、すべては自分に返ってくるからです。

**ヤコブ 2:14** 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがなければ、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。

**ヤコブ 2:15** もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、

**ヤコブ 2:16** あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。

**ヤコブ 2:17** それと同じように、信仰も、もし行いがなかったなら、それだけでは、死んだものです。

**ヤコブ 2:18** さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行いを持っています。行いのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行いによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」

利己的で自分のことしか考えない人は、信仰さえあればよいと言って、良い行いをまったくしないことを正当化しようとするかもしれませんが、ヤコブはその余地を与えません。

ヤコブは語ります。行いのない信仰は死んだものだ。

**1ヨハネ 3:17** 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。

**1ヨハネ 3:18** 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。

つまり、ヤコブの言い分はこうです。信仰があると言ってくれなくてもいいから、見せてください。言うは易し。行動は言葉より雄弁である。

一方で、信仰のみではなく自分の良い行いを頼りとする人もいます。

これについて、パウロはこう書いています。

**エペソ 2:8** あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

**エペソ 2:9** 行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。

ここで明らかにされているのは、私たちが行いではなく恵みのゆえに信仰によって救われたという事実です。では、ヤコブの言い分はどうなるのでしょうか。矛盾しませんか。「行いのない信仰は死んだものだ」とはどういう意味でしょう。ここでパウロの次の言葉に注目してください。

**エペソ 2:10** 私たちは神の作品であって、**良い行い**をするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが**良い行いに歩む**ように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

真の信仰と正しい行いは対であるということです。私たちが救ってくれないからといって、良い行いを捨て去るわけにはいきません。信仰があれば、その結果として自然と良い行いが生まれます。信仰が動機であり、行いは結果です。にもかかわらず、当時も今も、良い行いをしないことを正当化したり、イエス・キリストを信じる完全な信仰をこのように主張したりする人がいます。「私は唯一の神を信じています。それで十分でしょう。なぜ良い行いをする必要があるのですか。」

ヤコブはこのように答えます。

**ヤコブ 2:19** あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。

**ヤコブ 2:20** ああ愚かな人よ。あなたは行いのない信仰がむなししいことを知りたいと思いますか。

**ヤコブ 2:21** 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行いによって義と認められたではありませんか。

**ヤコブ 2:22** あなたの見ているとおり、彼の信仰は彼の行いとともに行ったのであり、信仰は行いによって全うされ、

**ヤコブ 2:23** そして、「アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。

**ヤコブ 2:24** 人は行いによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことがわかるでしょう。

**ヤコブ 2:25** 同様に、遊女ラハブも、使者たちを招き入れ、別の道から送り出したため、その行いによって義と認められたではありませんか。

**ヤコブ 2:26** たましいを離れたからだが、死んだものであるのと同様に、行いのない信仰は、死んでいるのです。

先ほど見たように、霊のない体は聖書によると死の定義です。霊は死にませんが、体は死にます。そして、行いのない信仰は、死んだ体のようなわけです。

最終的に、このような問いにたどりつきます。これは私たちが自分自身に問いかけなければならないことです。

私たちの信仰は生きているでしょうか。死んでいるでしょうか。

パウロが言ったことを思い出してください。

**エペソ 2:10** 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

神が私たちのために備えてくださった良い行いとはなんでしょう。もしわからなければ、聞いてみましょう。そこがスタート地点です。もしわかっているなら、すぐにそれを始めましょう。